

ふるさとの鼓動 北に生きる心 むすんで

こぶし

第118号 2005年5月18日発行
 発行責任者：横井正人 編集：機関紙局
 特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座 北海道函館市陣川町 122-172
 TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9 年 4 回 発行
 E-mail: kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kobusiza

主な内容

- (1) NPOこぶし座第6回 通常総会開かれる
- (2) 1～3月の活動から
- (3) こぶし座後援会総会開かれる



こぶし座会館で行われた第六回通常総会

新体制で向かった一年を終え 創立四十周年の今年、心あらたに

第六回通常総会開かれる
四月二十九日・こぶし座会館にて

「NPOこぶし座二〇〇五年度通常総会」が社員十九名の参加で開かれました。

議長に選出された田畑悟志が「会館前のこぶしの木が花を咲かせました。今日の総会を咲かせました。今日の総会を咲かせました。」とあいさつし開会。

はじめに横井理事長が「新しい体制で向かった一年、いろいろな場面で力の足りなさを

を感じたが、多くの人から励ましや感動をもらい活動してこられた。JR西日本が引き起こした大惨事にも現れているように企業は利潤優先、国民の命が二の次にされ、追われるような暮らしを強いられている、こんな世の中だからこそ昨年の活動を振り返り、NPOこぶし座らしいあり方をみなさんと共に確認して行きたいと思えます」とあいさつしました。

第一号議案「二〇〇四年度事業活動報告」では二名の発言がありました。

「伝統芸能の調査、継承、研究」について創演部・計良正子が取材活動の報告を行いました。また、「公演部活動」について公演部・松岡智恵美が、創立四十周年、そして世代交代という節目の年に向かい、公演部員として責任を果たせるよう、一人一人が真剣に課題に挑み次年度に向かう基盤をつくってきたことや三月に行われた土別市での公演から実行委員会事務局局長が地元紙に投稿してくれた「こぶし座の持つ静かな力」の記事を紹介しながら、座の歴史を大事に受け継ぎ課題に取り組みたいと発言しました。

第二号議案「二〇〇四年度収支決算報告」は監査報告と合わせて承認されました。

第三号議案「二〇〇五年度事業活動計画」では三名の発言がありました。

「伝統芸能の継承、作品創造」について創演部・横井正人が、二〇〇六年度に作品化させるため東北の芸能習得に挑みはじめたこと、また秋からの一般公演では公演部員として三十八年間活動してきた古川喜美子が公演部をはなれ村田さつきが加わる事を報告し、古川が演技者として伝え残してくれたものを受け継ぎながら新しい公演部づくりに励みたいと決意を語りました。

「制作活動」について制作部・中尾雄児が、昨年度の一般公演実績にもとずきながら、「文化を通して町づくり」と行政と民間・特に文化協会が協力、道や市・町の助成を受けての公演が多かったことを報告、また生産者の願いが「子宝三番叟」に、平和への思いが「南北の塔」に等、内容への共感をつくりだせたが、制作力が弱く広げきれないことが課題、今年度は座の英知と支持者の協力をも

ら議案が承認されました。

第四号議案では、「二〇〇五年度収支予算」と「こぶし座基金創設について」の提案がありました。

座活動継続のため本部建設、NPO法人移行の手だてをとり進めてきたが、道内の急激な変化が座の経営に大きく影響し、長期計画に基づいた建設借入金返済を難しくしている。この困難打開のためこれまで以上に多くの道民に支援の輪を広げ、北海道に根ざす生き方を貫きたい。経営基盤づくりとして「こぶし座基金」を創設したい、との趣旨説明を受け審議され、今後さらに検討を加えていくことで、収支予算とともに承認されました。

第五号議案では、「二〇〇五年度収支予算」と「こぶし座基金創設について」の提案がありました。

座活動継続のため本部建設、NPO法人移行の手だてをとり進めてきたが、道内の急激な変化が座の経営に大きく影響し、長期計画に基づいた建設借入金返済を難しくしている。この困難打開のためこれまで以上に多くの道民に支援の輪を広げ、北海道に根ざす生き方を貫きたい。経営基盤づくりとして「こぶし座基金」を創設したい、との趣旨説明を受け審議され、今後さらに検討を加えていくことで、収支予算とともに承認されました。

厳しい社会情勢だけにこぶし座の活動が求められている、四十周年を足場に更なる活動の展開を、と気持ちをひとつにして総会は終了しました。

総会での発言より

(紙面の都合上、発言の要旨を紹介します)

取材活動で得た 熱いもの

計良正子

佐藤正則さんと初めてお会いしたのは「鳥舞」の取材の時、木直大正神楽の保存会長をされていた頃です。

自宅へ伺い神楽の歴史や踊りの話を聞かせて戴き、20年前のビデオテープを見せてもらいました。その中で踊る佐藤さんの「三番舞」は衝撃的でした。何かが乗り移っているかのような迫力です。大地をしっかりと踏みしめる足拍子と躍動感、速いテンポと激しい動きにもぶれることのない腰の安定とキレの良さ、見事な踊りでした。膝が悪くて今はとても踊れないと、残念がる佐藤さん。神楽にかける溢れんばかりの情熱はいったいどこから生まれるのか、知りたいと思いました。

その後何度か南茅部を訪ね踊りを習い、出会いから4年がたちました。

佐藤さんは、大正15年生まれの八十歳、漁師をしています。なぜ神楽を踊るようになったのかを語ってくれました。

あれは、昭和17年。

戦争が激しくなり村の男達が次から次へと戦争へとかり出されて行く時代でした。

出兵家族慰問と国防献金の目的で、途絶えていた郷土芸能の木直大正神楽を復活させようと言うことになり急遽、青年が集められ稽古が始まりました。

その時わたしは十七歳、初めて神楽を踊ることになりました。漁の合間を縫っての稽古はそれは厳しいものでしたが、子どもの頃から慣れ親しんでいる神楽ですから体の中からリズムが湧き出てくるんです。楽しかったですよ、とにかく必死でした。みんな夢中で稽古に励みました。

経験がないからなどとは言っていない、とにかく私たちが覚えなければ公演が成り立たないのですから。やっといくつかの演目をも

のにして公演を行いました。

つたない私たちの踊りに拍手をしてくれて涙を流す人もありました。戦地に行っている息子や父さんの姿をだぶらせていたのかもしれませんが、

沢山の地域を回りました。村の皆さんから寄せられた浄財は国防献金に回しました。海軍大臣や陸軍大臣から感謝状を受けた事もありました。

すべてが、お国の為の時代でしたから……。

その後、私にも召集令状がきて青森の軍事訓練校へと向かいました。

淡々と語られる佐藤さんの昔話が、胸にしみました。

戦後、利尻島へ二シン漁の出稼ぎに行き奥さんと知り合い結婚したこと、お父さんが鱈釣り漁師をしていて何度も死ぬめにあつた話を聞かされて育ったこと、戦争で亡くなったお兄さんが歌のうまい人で鱈釣りをよく歌っていたこと、自分は歌はだめだけど神楽が大好きなこと。

そして、漁師として仕事に励み、家族みんなで漁をして暮らしてきたこと。喜びも、悲しみも、苦しみも、当たり前のこととして語られる佐藤さんの80年の歴史、人生。

佐藤さんにとって神楽とはどういふものですかとお聞きすると、「改めて考えたこともないけど、やるのが当たり前、前で空気のようなものかな、とにかく私たちの神楽を待っている人がいて喜んでくれる

今年度の活動に
向かって
村田さつき

今年度の活動に
向かって

村田さつき

今年度最大の私の課題は一般公演の演目である「おかめ・ひよっこ子宝三番叟」の

ひよっことこの大役。配役で自分の名前が告げられた時には耳を疑うほど驚きましたが、不思議と「無理」というような否定的な気持ちはなく、むしろこの役は重大だけれども自分にとって転機になるかもしれないという思いがわき上がりました。二十代最後の年に表現者として、また、一人の

人がいるんだからやめられなかったんだよ。」

最後に、小さい頃の夢は何だったのですかとお聞きすると、「うーん漁師だな、それ以外のことを考えたこともなかったよ。」誇りに満ちた優しい笑顔が返ってきました。

一人の漁師の生きざまそのものが、人の心を揺り動かしか胸を熱くさせる。

作品創造の命は、この熱いもの、感動にあるのだと痛感しています。なんとかこの「想い」を形にしたいと思っています。

人間として成長するためのプレゼントを受け取ったような気がしました。

今までにないくらい前向きな自分。昨年のいろいろな出来事、様々な出会いがそうさせてくれたように思います。その中で取り分け印象的だった事は、道東の矢白別で平和について考

えている大勢の人達と一緒に過ごした三日間。年末に行われた歌舞団交流会で同世代の演技者が表現方法の違いこそあれ同じように頑張っている姿に勇気付けられたこと。積極性と忍耐強さを養わせてくれた学校公演依頼活動。そして、とにかく失敗をたくさんしました。以前なら避けて通っていた失敗を今はそ

民族歌舞団こぶし座

創立40周年記念事業の
お知らせ

祝賀会
日時 7月30日(土)
午後2時
場所 函館国際ホテル
主催 こぶし座後援会

「40年の歩みと作品」(仮称)
編・著 國田修司

祝賀会に合わせ出版予定!

一ヶ月活動より

千年の都・京都での仕事で幕開けた今年。その後、保育園・幼稚園公演、地域公演そして公演依頼と、様々な活動を通してたくさんのお会いがありました。

土別市民劇場 代表 安川登志男

(こぶし座土別公演 実行委員会事務局長)

「いやあ、前のクルマのテールランプが全然見えなくて、途中から引き返そうかと思ったださ。」というほど、こぶし座土別公演の三月八日は、時ならぬ猛吹雪に見舞われた。しかし、「客は来るのか、来られるのか。」という不安を振り払うように、四百名近い観客が来場し、休憩時にはロビーで、「雪がひどいからどうしよう」と迷ったけど、ほんとに来て良かったわ」という声を耳にして、言い知れぬ満足感が心の中に広がった。

こぶし座の中尾氏の訪問を受けたのは昨年十月。十数年前から幾度も訪問を受けたが、その都度地区公民館などを紹介して、自分自身が関わる事はしなかった。だが、どうい

「静かな力」を感じた。殺伐とした現代社会に生きる私たちに、人間として失ってはならない大切な何かを思い出させてくれる舞台」(土別公演にあたって地元紙への寄稿の一部)という印象で、一月末には、文化協会会長の卯城孝浩氏を実行委員長とする「こぶし座土別公演実行委員会」が立ち上がり、私は事務局長として準備にあたった。

暖かい先生方との 出会い 横井ひとみ

今年も沢山の子どもたちに、こぶし座の公演を見てもらいたいと、全座をあげて、函館、札幌などに分かれ学校公演依頼活動を行いました。私は村田さつきと二人で函館を担当しました。

子供たちに日本の伝統文化を通して自分たちの国のすばらしさを伝えたい・・・そんな思いを整理し、背筋を伸ばし学校に入る前に深呼吸。緊張して一番始めに訪ねた学校で、こぶし座さん、しばらく

2005年度 公演活動

< 学校公演 >

- 6月27日 剣淵町(巡回)
6月28日 滝上町(巡回)
7月05日 大樹町(巡回)
7月07日 北見市北小学校
7月08日 遠軽町東小学校
7月12日 森町(巡回・旧砂原町)
7月14日 穂別町(巡回)
7月15日 大滝村(巡回)
7月20日 函館市高盛小学校
8月23日 浦白町(巡回)
8月24日 江別市江別第三小学校
8月30日 下川町全町中学校
8月31日 下川町(巡回)
9月02日 石狩市花川小学校
9月05日 函館市東山小学校

- 9月06日 函館市北日吉小学校
9月08日 岩見沢市美園小学校
9月09日 北広島市東部小学校
9月13日 札幌市東橋小学校
9月16日 函館市高丘小学校
9月20日 佐呂間町(巡回)
9月22日 常呂町(巡回)
9月30日 札幌市発寒南小学校
10月05日 札幌市ひばりヶ丘小学校
10月06日 札幌市石山南小学校
10月14日 横浜市今宿南小学校
10月18日 横浜市永谷小学校
10月19日 横浜市新橋小学校

< 保育園・幼稚園公演 >

- 6月30日 札幌市丘珠ひばり保育園
8月31日 下川町全町保育園・幼稚園
10月03日 札幌市菊水上町保育園
10月07日 札幌市柏葉保育園
12月22日 函館市こぼと保育園
1月17日 函館市青い鳥保育園
1月19日 杉の子保育園
1月19日 上湯川保育園
2月09日 函館市千歳幼稚園
2月13日 札幌市たいへいみなみ幼稚園
2月14日 札幌市かっこう幼稚園
2月15日 札幌市第一福ちゃん保育園
2月16日 札幌市東川下ポッポ保育園
2月17日 札幌市第二福ちゃん保育園
2月17日 札幌市すずらん幼稚園

第十六回 こぶし座後援会総会 開かれる

ゴールデンウィーク最終日の五月八日、こぶし座会館において「二〇〇五年度後援会総会」が開かれました。参加者は二十九名。

昨年度の活動のまとめや会員の動態、収支決算などの報告、続いて今年度の予算、活動計画についての提案がありました。

会員の動態報告では、事務局から「昨年、会員を増やす努力と増口も呼びかけよう」と取り組み、増口が昨年の五倍になるという成果があった。しかし経済状況の悪化や高齢化による退会も多く総体では人数・口数ともに減少した」と報告されると、参加者から「会員を増やすためにも見える活動を、こぶし座が公演できる機会をつくって行う」となどの意見が出されました。

今年度の計画では、後援会主催の創立四十周年を祝う会開催の提案がありました。

職場での闘いの中でこぶし座の演奏に励まされたことや座との出会いなど、座の四十年を自分自身の生き方と重ね喜び語られる場面もあり、あ



昨年につづき太鼓で交流

らためて後援会員一人一人の熱い思いに支えられて来たことを実感しながら、これからも新しい出会いの中で結びつきを深め後援会員を増やしていけるよという活動をして行きたいと思いました。

【二〇〇五年度の計画】
・七月三十日(土)
創立四十周年祝賀会
午後二時より
函館国際ホテル

・八月二十八日(日)
応援バザー
午前十一時より
函館音楽文化センター

・九月二十三日(金・祝)
秋のレクリエーション
四季の杜公園

後援会・音鑑応援団主催

こぶし座応援 バザー

とき：8月28日(日)午前11時~午後2時
ところ：函館音楽文化センター(はこだて音鑑)
函館市高盛町22-7
(0138)32-1773
物品提供のご協力
よろしく申し上げます

創立40周年

新たな歴史を共に歩もう!

座員大募集

演技部員 スタッフ 制作部員

18歳以上の心身ともに健康な男女
- 経験は問いません -

研修期間は1年間
(生活上の援助制度があります)

第19回 日本の踊り・太鼓講座シリーズ

こぶし座 太鼓・笛講座

太鼓講座(初級)太鼓の基本~ぶち合わせ太鼓

定員 12名
日時 7月23日(土)18:00~21:30
24日(日)9:00~17:00

笛講座(初級)笛の基本~「さくら」まで

定員 6名
日時 7月23日(土)18:00~21:00
24日(日)10:00~17:00
八本調子の唄笛を使います。

会場 こぶし座会館
受講料 大人 5000円
中高生 3000円
笛をお持ちでない方はお申し込み下さい。
(プラスチック製で2000円程度です)
定員になり次第締めきりますので早めに電話などでお申し込み下さい。

編集後記

信じられない重大事故が起きた。四月二十五日尼崎市での快速電車の脱線、百七人死亡、重軽傷四百八十人。被害者のことを思うと胸が苦しい。いま、過密な高速運転をさせてきたJR西日本が批判されている。安全よりももうけが大事なのかと。

この間に、信じがたい世界も見た。世間を騒がせたライプドアとフジとの七十日間の争い。和解してみると、なんとライプドアは千億円の融資で四百七十億円のもうけ。ライプドアの後ろに、八百億円融資した米系投資会社...

別々の事件のように扱われているが、今の日本が持つ根深い歪みからきているように思えて仕方がない。歪みを正さないと恐ろしい。世直し、昔の言葉が今重みを持つ。

全道各地で出会った住民運動は、高齢化と過疎化で進む歪みから、地域を守る世直しだ。これからいつそう住民運動と関わることで、世直しに参加してゆきたい。

(中尾)